

第8日

令和8年6月18日（木）

午前10時50分再開

○議長（小島清人君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、10番半田雄三議員の質問を許可します。10番半田雄三議員。

（10番半田雄三君登壇）

○10番（半田雄三君） 改めて皆さん、おはようございます。一般質問の許可を得ました10番議員の半田雄三でございます。本日一般質問に当たりまして、通常、執行部と今後の市政に対して語っていく、問いただしていくということが本来の在り方でありましようが、今回は、二、三点、今回行われました市長選のことも含めて、質問をしていきたいというふうに思います。

さて、私事ではございますけれども、6月7日の日曜日に、堀川の一斉清掃というのがございました。これは堀川というのは、山田堰とか三連水車が流れている川というか、水路でございます。

ここに毎年、今年も900人を超える住民の方で、堀川の一斉清掃というのを行いました。全長が10.3キロ。これは毎年の恒例行事で、実際に水が通り始めます前に、堀川に対する感謝の気持ちと、それと水に対する感謝の気持ちを込めて行われるものでございます。

例年、この日がまさに消防団の操法大会と重なっておりまして、御挨拶だけさせていただいて、例年は帰っておったんですけれども、今年は消防団の日程が変更されましたので、それに伴いまして、フルで参加させていただいたというところでございます。

おかげさまで、慣れない草刈り機を持って草刈りを行いました結果、二、三日、筋肉痛に悩まされていたことは言うまでもございません。

そのような中、昨日、多分ニュースでも御覧になった方がいらっしゃると思うんですけれども、三連水車が回り始めました。例年ですと、議会の日程の合間に回り始める瞬間を必ずと言っていいほど見にいきまして、ちょっと元気をいただいている状況なんですけれども、今年は議会日程との調整がつかずに参加ができませんでした。

会場に行きますと、幼稚園児の頑張れ、頑張れという声とともに、少しずつ水車が回り始めまして、水が来るにつれて、少しずつ回り始めまして、だんだん力強く回っていくと、その水車の様子というのは大変感動的でして、一見の見る価値はあると思いますので、ぜひ皆さんタイミングが合えば御覧いただけることをお勧めいたします。

ちょっと最初に言い忘れましたけれども、中島市長、新市長就任おめでとうでございます。ぜひ頑張ってくださいと思います。本日少し苦しいと思いますが、ことも申し上げると思いますけれども、ぜひよろしく願いしたいと思います。

本日の一般質問では、市長選挙の結果を踏まえて3点ほど、所信表明を受けて3点ほど質問を重ねていきます。以後、一般質問席よりの質問を続行いたします。

(10番半田雄三君降壇)

○議長(小島清人君) 10番半田雄三議員。

○10番(半田雄三君) 先ほどもちょっと申し上げましたけれども、今回の選挙の結果を踏まえというところで、項目を出させていただいておりますが、正直申し上げまして、中島市長に裏切られたような気持ちを持っておりました。

市長が議員だった当時、全協室でも隣の席、委員会でも隣の席ということで、大変話をする機会も多く、なおかつ非常に勉強熱心で本もたくさん読まれて、前向きな方であると認識しておりましたのに対して、今回の選挙にうそとかデマといいましょうか。うそ、デマ、誤情報というのが本当に頻繁に出てきておまして、これがこのまま流れていって終わってしまうというのは、決して朝倉市にとってはよくないんじゃないのかなと。本当に民意とは何だろうというところまで本当に考えましたので、この事実の確認をさせていただきたいというふうに思います。

まずは、今回市長選に当たり、中島市長は、市議という立場を公示日まで続けて、自動失職となりました。そのことの意図についてお尋ねいたします。

○議長(小島清人君) 市長。

○市長(中島秀樹君) 私は議員として、市議会議員として、市民の皆様の負託を受けましたので、最後までその職を全うするのが私の務めだというふうに思いましたので、自動失職を選びたいというふうに最初から考えておりました。

一方で、早く辞めて覚悟を見せろとかいうような意見もあったんですけども、辞めたから覚悟を見せるというのはどうなのかなと思ひまして、私は負託を受けた以上、最後までやり通して、議員としての仕事も少し、本当に少しだけなんですけれども、しておりましたので、そういう失職という手法を選びました。

○議長(小島清人君) 10番半田議員。

○10番(半田雄三君) 傍聴にいらっしゃる皆様、そしてインターネットで見られている皆様のためにも、あえてどういう仕組みだったかというのを言いますと、選択とすれば、途中で辞任して選挙に備えるという形と、公示日まで議員を続けて自動的に失職するという選択の二つがあります。

この選択によってどうなるかと言いますと、公示日の10日前までに辞任されますと、市長選と合わせて補欠選挙が行われます。今回、約2名ほどの若い人の名前が出てきておりました。その人たちも、恐らく中島市議、当時の市議が市長に出られるから、補欠選挙に出ようというつもりでいらっしゃったと思うんですが、結果的にその芽を摘んでしまったということになっていると思いますけれども、これについてはどう思われますか。

○議長(小島清人君) 市長。

○市長(中島秀樹君) 私はその話は初めて聞きまして、2名の方が出たいという、若い方ですか。若い方が出たいというのは、すみません、私は存じ上げません。お一人だけ、

辞めないのというようなことを尋ねられたことはありますが、その方は若い方ではありませんでしたので、その若い方が2名出ようとしていたのは、すみません、存じ上げませんでした。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） もう一つですけれども、個人の責任を全うするという名のもとに、公示日までされた。結果、残りの1年間は18人の定数が17名で回さなきゃいけなくなっていると。これ、議員定数というと簡単に決まっているように見えますけれども、毎選挙ごとに1年間ぐらいかけて定数をどうするか、そういう話を議会内でもしていきます。

それは、多分市長も大変御存じのことだと思いますけれども、これが17人になっているということを、全然考えられませんでしたか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 1人減ってしまうということは、御迷惑をかけるなど、私が辞めることに関してかけるなど思いましたけれども、一番私の中でちょっと引かかりましたのは、建設経済委員会が1名減ってしまいますので、委員会運営は大変だろうなという気持ちはありましたけれども、残り期間が1年でしたので、皆様のメンバーの実力であると十分乗り越えていけると言ったらちょっとおかしいんですけれども、運用していくとか、回していけるのではないかというふうに考えていました。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） 多分そういうことだろうなというふうには思っておりましたが、議長までされておりますので、議会全体のことをもっと考えてほしかったというのがまず一つ。

そして、議会内で会議している内容の中に、議会議員の人数のことが1点、そして議員のなり手不足をどうしようかという問題も併せて議論をしておりますから、その二つを一遍に今回つぶされたという結果になっております。

実質4月の2日までに辞任されておれば、補欠選挙が行われて、若い人、私が知っている限りでは2人の方が名前が出ていたようですので、どちらかが入ってこられて、1年間ではありますけれども、議員として活動されたと。

だから、1人減ってもできるとかできないとかいう問題ではなくて、議員定数というのが簡単に決まっている問題ではない。18でも17でもどっちでもいいよというふうに見えかねないということも含めて、そこはちゃんと考えてしてほしいなというのをまず思っていました。その点が1点です。

それと2点目ですが、今回13番議員、14番議員からも出ておりましたけれども、外国人マンションについて、私の認識では前市長も中島市長も市議会の皆さんも全部反対の立場であったというふうに認識しております。

ところが、選挙戦になって突然争点として出てきた。同じ考えの人たちが集まって争点

として出てきたことについてどう思われてますでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 繰り返しになりますけれども、外国人マンション事業の件につきましては、地元の中では時々、地元ではあなたは賛成派なんだろうということを言われていましたので、いえいえ私は反対派ですと、賛成はしておりませんということを申し上げていました。

そして、昨日話しましたように、舛友さんという方のルンリィーという本を読みまして、その中に1万戸、5万人の計画であるということを書いてありましたので、これは朝倉市にとって好ましいことではないというふうに意を強くいたしました。

そういった中で、選挙戦の中であなたは賛成派なんだろうということを随分聞かれましたので、これはきちっと出しておかないと、私は賛成派のまま選挙戦を戦うことになると思ひまして、反対派であると、反対であると、決して賛成はしていませんということを表明させていただきました。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） 前日、初日もその話が出ておりまして、その答えをいただいておりますけれども、改めて御本人の口からそれを聞かせていただきました。

といいますのも、もしその問い、例えばあなたは賛成派ですか、反対派ですかと聞かれたときに、もともと争点になってないこと、みんな反対ですよって一言で言える、これは誰も賛成していませんよってというのが一言で言えるのに対して、私は反対ですよという返事をされたことにも、ちょっとショックなんですよね。

議会運営といいますか、議会全体を束ねる立場になった人であれば、議会、今、一昨年、一昨年の夏ぐらいからずっともめてますよね、このこと。それが何でもめているのかというと、誰かが賛成しているっていうのをくり上げられているものだから、こういうもめ方をしているわけですね。

だから、いろんな場あるごとに、議会も反対ですよ、前市長も反対ですよという言葉言えばよかったんじゃないのか。わざわざ誰と誰が賛成で、誰と誰が反対ですよっていう必要もないんだから、全員反対なんですから、そういう言葉を言うべきだと思うんです。

さっきの話にしてもこの話にしても、自分のことを考えて発言されている。だから本当に全体のことを考えれば、そういう発言ができたんじゃないのかなっていう、非常に残念にその辺を思っております。

この件につきましては、それで結構ですが、もう1点、立候補者公開討論会につきましてお尋ねいたします。

4月10日に行われました。私の知る限り、当初お二方とも欠席だったというふうに聞いております。1日目の13番議員と、昨日の11番議員の質問の中でもお答えいただきましたけれども、もう一度ここをお答えいただきたいというふうに思います。欠席だったのか、

出席だったのかを。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 多分ですね、御案内を持ってこられて、最初、昨日も申し上げましたように、商工会議所であったりとか青年会議所が開催するのが一般的だというふうに私のイメージの中ではあったものですから、聞いたことのない団体だなと思ひまして、出席するかしないか迷いました。

そして、後援会の中で話をしまして、出席をしないほうがいいんじゃないかということになりました。出席をしないつもりであったんですけれども、日にちが近まって帰しまして、後援会の中で、あなたは対話を大事にするというふうに言っているのに、そこに行かないということは、市民との対話をしないということを言っているから、もう告示日を迎える前に公約違反をしているという声が出まして、これもかなり話をしたんですけれども、やはり対話を大事にする以上、その公開討論会に出ないというのは、確かに公約違反になるよなと思ひまして、出るということを決めさせていただきました。こういう流れになっています。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） それはいつの話で、出席をはっきりと表明したのは、いつの話なんでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 表明といいますか、多分、主催者のほうには、出席するというのは届けていないような記憶があります。ただ、5日前ぐらいだったと思うんですが、告示日の5日前ぐらいだったんですが、前市長と甘木のまちの集まりといいますか、それぞれの意見を聞くという場がございまして、どうするんですかということを市長から尋ねられましたので、林市長から尋ねられましたので、その時点では私は行かないつもりだったものですから、行かないつもりですということをお伝えしました。

私が一番引っかけましたのは、林市長のほうに行かないということを伝えていましたので、それはやはり行くということを伝えないといけませんので、3日前に林市長の携帯にお電話をいたしまして、私は行くことにしましたと。林市長も一緒に行きましょうということをお伝えいたしました。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） 多分間違いがなければ、これが4月の10日に行われましたかね。その前日の夜だったんじゃないのかなと、お電話をされたのはと、私は認識しておりますけれども、どっちにしろ当初欠席だった部分が、その前日もしくは前々日ぐらいに急遽出席に変わったということですね。

ところが御存じのとおり、SNSを中心に広がったことというのは、前市長はドタキャンした、突然欠席して逃げたと。そして現市長にあるまじき行為だと、こんな市があるな

んて信じられないという言葉が出回りました。

そして、その真実を今お話をしていきましたけれども、ドタキャンじゃなくて、中島市長がいわゆる土壇場で出演された、出場されたというのが真実なんですよね。

ところが、そういう片方に悪意を持った情報を流して、悪者にして徹底的にたたくという、SNSの得意なやり方といいましょうか、でされた。それが4月10日だったですから、4月12日が公示日だったと思いますけれども、それからもう9日後には選挙があったと。

その間、SNSでだんだんだんだんそれが広がっていったと。これを完全にうそのデータをもとに行われた選挙で獲得した票は、民意と言えるのでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 事前の通告の中に、前日に連絡をしたという言葉が入ってありましたので、私確認をさせていただいたんですが、7日の夜にお電話を差し上げています。

これは発信の履歴が残っていますので、私もやっぱり前日に急に出来ますというのは、それは幾ら何でも失礼だろうというふうに思っておりましたので、7日の夜にお電話を差し上げまして、一度別の方にお電話をして、こうやって電話をするから、電話に出てくださいということもお願いをいたしましたので、その方の履歴も見たら、7日というのが分かるのではないかと思います。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） ちょっとこの点で話をしていきますけれども、来年、統一地方選があります。このままの状態がまた繰り返される可能性すらあります。どうやったら防げますか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 一般的な話になってしまうんですけれども、やはりネットの世界というのは玉石混交ですので、一般的な話なんですけれども、やはりそこを分かっていたいて、ネットの中は全て本当の情報ではないんですよと、これを啓蒙していくといいますか、当たり前の一般的な本当の話になってしまうんですが、もうそれしかないと思います。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） それも確かに一つの手だと思いますが、今おられる市長という立場から考えていただきたいのは、こういう状況が起きない状況を設定してしまえばいいわけですから、例えば最初に市長がおっしゃった公的な公平性、公正性、中立性が担保された団体がする、そういう会であるということが担保されれば、2人とも出席されていたということですよ。それが心配だったから最初欠席にされたということでしょう。その部分を言っております。何か考えはありませんか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 開催の団体は、私は初めて聞いた団体で聞いたことがないということで、不安を抱きましたので、そこがきちっと、行政が、公開討論会というのはあくまでも市長としての答弁ということですね。行政がお墨つきを与えるようなものではなくて、自由にするものですから、そこにこの団体がいいですよ、悪いですよとかいうようなジャッジをするというのはどうなのかなと。それは青年会議所であつたりとか、極端に言うと若者の有志の会とかですね。そういうのでも自由に私は開催してもいいものではないかと考えています。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） 私も確かにどこの団体が主催されてもいいとは思いますが、前提にあるのは、多分双方もしくは三者が来られる中で、中立性だったり公平性だったり公正性が保てない場合、悪影響といいましょうか、変な影響を及ぼす可能性があるかと。

だからここには出席しないとか、だから出席するとかいうその要因になるわけですね。これちょっと選挙管理委員会にお尋ねしますけれども、この主催、こういう討論会の主催については、何か規定があるんでしょうか。

○議長（小島清人君） 選挙管理委員会事務局長。

○選挙管理委員会事務局長（古賀 博君） 今回の公開討論会につきましては、告示前でしたので、告示前のこういった活動につきましては、政治活動ということになりますので、選挙管理委員会に届出の必要とかはございませんで、選管が特に許可する立場にはないという状況でございます。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） 多分警察の管轄になるんでしょうけれども、警察が許可するに当たっても、その公平性とか公正性というのをちゃんと考えてやられているのかというのは、我々も見えていかなきゃいかんポイントになるだろうと思いますので、直接市がどうかするとかしないとかいう形ではなく、例えば警察に対してそのポイントを確認するとかいう部分はちゃんとやらないと何遍も何遍も同じ結果が出る。こんだけ荒れてしまって、本当に後味の悪い選挙になる。

もちろんこれによって負けたほうは大ダメージではあるんですけども、勝たれた中島市長も恐らく大変損されていると思うんです。イメージ的に物すごく悪くなっていると思います。

こういうことをなくすことが一番多分朝倉市にとってはプラスになっていくだろうというふうに思いますので、ここの部分はもっと真剣に考えて、そして本当に公平であるかという部分をポイントにしながら開催するような方向に持っていく。もしそれができないのであれば、市民の皆さん方は、この公開討論会というのが公の公的な事業であるかのごとく受け取られています。

ではないということを伝えるなり、そうならないようにするなりという作業をするべき

だと思しますので、ぜひよろしくお願ひしたいというふうに思います。お願いします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 今お話を聞いていてお伝えしたいことが二つありまして、一つが出るか出ないかというのを後援会で話し合ったときのことの、出ようと思った判断材料の大きなものは、私は市民との対話を大事にしているから、そこでやはり出ないというのは公約違反になるということが一番大きな理由です。

ただ二つ目が、この団体の方は、その前の年だったと思うんですが、東峰村で公開討論会をなさってあって、その討論会は普通にやったといひますか、当たり前の公開討論会だったということを聞いております。

それと当初申し上げましたように、何で青年会議所とか商工会議所じゃないんだろというのの一つありました。それは青年会議所か商工会議所かどちらかに話を持っていったけれども、やらないんだということで、断られたといひますか、やらないというふうにお決めになされたから、自分たちがやりますということをおっしゃられました。

それと、三つ目が事前に質問を10項目ほどだったと思うんですが、事前の質問が来ておりましたので、その質問を見ますと、至極当たり前の質問といひますか、多分選挙戦で皆さんこういうことを質問を持たれるだろうなというような内容でしたので、その三つから、当然市民との対話というようなことをあれしましたので、公開討論会といひるのは私は絶対あるというふうに思っておりましたので、出るのが当然だと思ひて、なのと判断の材料といひるのは、そういった実績と質問の内容から、普通の討論会なんだろなと、そういうふうに思ひて出させていだいたといひるのがその経緯です。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） その団体がどうだこうだといひることよりは、先ほどから申し上げている公平に立場で、公正にといひるのが担保されているのかといひるところが一応一番のポイントだと思ひますが、ちょっとついでにといひますか、実際討論会を計画されて、片方の候補者しか来られていないといひる中で、実際その場で解散になったんでしょうか。私その場に出ておりませんので、分かりませんので、よろしければ、どういふ、1人の候補者の中でどういふことが行われたのかといひるのをお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） たしか集合時間が開催が7時かぐらいだったと思うんですが、すみません、ちょっとここ不確かなんですけれども、行きまして、出席を前林市長のほうにはお願ひをしていますので、開催時間までは待ちますと。

私も事前に、1人の場合は公職選挙法の関係で、討論会が成立しないといひるのは聞いておりましたので、ただ私が多分10分ぐらいか、ちょっとすみません、時間が分からないんですけど、1人で座ってまして、何も結局発言はしたらだめといひることも自分で調べてましたので、ただ座ってまして、そして解散になったといひますか、主催者の方が事情を説

明されて、解散になったというふうに記憶しています。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） 先ほどお答えいただきました結果、その後にネットで拡散されたのが、先ほど申しあげましたドタキャンして逃げたというのが広がっているわけですね。

だから、主催者から成立いたしませんので解散しますという発表が正式にあったんですか、その場で。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） この討論会は成立しませんというような趣旨の発言があったように記憶しております。1人だと討論会はできないんですというようなことはおっしゃられたと思います。

それと、これはちょっと申し上げていいのかよく分からないんですけど、公開討論会って私イメージ的にはたくさん人が来ていると思っていたんですけども、意外と少ないなという印象は持ちました。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） いろいろとありがとうございました。本当はここまで聞かなくてもいいことなのかもしれませんが、事実の部分が本当に伝わっていただきたいという思いを持っておりますので、かなり失礼なところまで聞いたような気がいたしますけれども、ぜひ今後、先ほども申しあげましたとおり、公正に行われるような場で、公正に議論が交わされて、市民の皆さんが民意として投票行動に表せるというふうに持っていけたらいいなというふうに思いますので、ぜひ、市ができることというのにも限られてくるのかもしれませんけれども、何らかの形で対応いただければというふうに思います。お願いします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） すみません。この発言は市長としてはなく、候補者であったときの立場としまして、先ほどの定数の話とか、そういうのを聞きまして、確かに言われたらそうなのかなと思ひまして、自分が考えがそこまで及んでなかったのかなと、今振り返って改めてそういうことを言われまして、考えるべきことだったのかなということは反省しております。

そういった中で、何ていうんですか。やはり自分は一生懸命でものが見えてなかったのかなと。やっぱり自分のことで精いっぱいだったというところがあって、ものが見えてなかったのかなという部分がありますので、そのところはもっとやはり冷静にといいいますか、そういう視点というのは、市長職というのは預かりましたので、ここはやはり大事にしていけないといけないというところだと思ひましたので、そのことだけお伝えしたいと思ひます。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） ぜひよろしく願いいたします。

引き続き、所信表明について3点ほどお尋ねしていきます。

まず、所信表明を読んだときに、最初に思いましたことが、本当に愕然としました。1番議員、2番議員、8番議員と何人もの議員から指摘がありましたことと一緒です。まさに中島市長が議員だった当時、議長ですけれども、平成29年の大災害があり、日常業務もまるでできなくなって、日々復旧に明け暮れたという日々を過ごされた議長です。

その間、全国各地から支援いただいたり、周辺の市町村から応援いただいたり、そんな中で、この災害復旧とは言いませんけれども、安心安全の考え方がまるとすっぽり欠如していることにちょっとショックを受けまして、これが一番だろうというふうに思っていましたので、そこを感じました。

そんな中、昨日、一昨日の一般質問の中で、土台としてありますという返事をいただきましたので、多少安心はしているところなんですけれども、これは何があっても最初に文字に記して残すべきことだろうというふうに私は思っています。

現状、関連部署すらまだ残っていますし、助けていただいた方に対しても、朝倉市はこんだけひどい災害に遭ったけれども、ここまで立ち直りましたよと。だけど今後は絶対起こさんようにやっていきますよというところを表さないと、恐らく移住とか何とかの問題になってきても、対象から外されてしまう可能性があるのと。

だから、その部分は必ず入れるべきではないかなというふうに思いますけれども、市長いかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） リーフレットです。私が選挙で使ったリーフレットの部分は、土台の部分と思って、自分のやりたいことの選択肢として上げさせていただいて、このリーフレットをベースに施政方針を書いて、これは必ずしもイコールではなくてもいいというふうに考えています。

その部分で、その部分が私は土台と思っていたんですけれども、そのところが抜け落ちているというのは議員の皆様から大変指摘を受けましたので、そこは私が戒めとして受けて、先ほど言いましたように視野が狭くなっていたんだなと思いますので、真摯に反省いたしまして、ただ何回も申し上げますように、林市長、森田市長がやって来られたこの部分というのは、もちろん大きな功績があったと思っておりまして、これは絶対に粛々と進めていかないといけないという部分だと思っておりまして、これは最後まで寄り添うという、首長としてやっていく部分、これは大事な部分というのは改めて申し上げます。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） 災害復旧という形でテーマを上げますと、確かにその災害があったときの復旧、災害対応をどうするかということになるんですが、安心安全の考え方って

書いてますが、これには一昨年から続く外国人問題、それから朝倉地区において物流倉庫の問題、これもまだ全然解決しているわけではございません。

たまたま今朝倉市では工業団地というのはありませんけれども、企業誘致だったり企業の参入だったりする部分について、安心安全の考え方というのは必要なのではないかなというふうに思いますが、市長いかがお考えでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） これから必要だということです。これは住民の皆様が安心して住むというのは本当にそれこそ土台の部分だと思ってますので、これは必要なことだというふうに考えておりますし、それを行政として担保してあげるといいますか、安心な生活ができるように、市民の方が思ってもらおうということは必要なことだと考えています。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） それは環境問題とか生活面の問題とか、そういうことにも波及するということですか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 市民の皆様が不安に思っているのであれば、私は対話ということを中心に公約として上げさせていただいてますので、それはもちろん聞きまして、必要であれば対処していきたいというふうに考えています。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） ぜひその企業誘致とかいうのはもとより、企業進出に関しても細心の注意を払いながら、見ていかなければならないんじゃないかなというふうに思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

続きまして、三つのインターチェンジの活用という部分が出ておりました。読ませていただきましたけれども、市長の観点はパーク＆ライドの視点、どっちかというと利便性の視点を中心に書かれているのかなというふうに読み取りましたが、いかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 利便性の視点はやはり私の中では大きかったです。朝倉市の魅力を高めて、住民のニーズを満たして、住む人を大きくするといえますか、多くするという視点があります。

ただ一方で、半田議員が今から多分おっしゃるんでしょうけれども、工業団地とか企業誘致とかいう部分につきましては、市民のニーズが高いということは分かっておりますし、またこれは場所がないと進出していきたくても進出ができませんので、これはやはり考えていけないといけない部分なのかなということはよく認識しております。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） 朝倉地区、全体三つある中で、甘木地区のインターを中心とした地域というのは大変栄えているというふうに思います。これが朝倉市が、例えば50平方キ

ロメートルぐらいの小さな市であれば、コンパクトシティといいますか、スマートシティといいますか、中心部をこの拠点とした市のつくり方でいいんだろうというふうに思いますが、朝倉市は246平方キロメートル、県内でも4番目ですかね、に大きい市でありますんで、一つの場所を拠点としてつくった場合、恐らく今の状態のように甘木地区は人口が増えている。朝倉地区と杷木地区は人口が減っているという状況になりかねない、実際なっているというふうに思います。

そんな中で、ここ四、五年ずっと私言い続けているんですけども、この朝倉市にとってみれば、拠点というのを3か所つくるべきじゃないかというのをずっと言い続けさせていただいております。

その3か所というのは、たまたまインターが三つありますんで、それをもっと活用して拠点にすべきじゃないかと。今までの拠点の真ん中にあつたのは市役所なり町役場だったわけですが、それを合併したことでそのまま残してしまったことが、恐らくインターの周辺整備が遅れた理由だろうと思いますし、こと朝倉に至っては農地の転用、土地利用計画のほうが全然追いついていなかったということもありますので、特に平成29年の災害から朝倉地区、杷木地区のインターの周辺ではひどい災害に遭っております。

朝倉地区におきましても、各農地が土砂をかぶりまして、土砂撤去のために国の力を助けをいただきながら土砂撤去をしたという実績があります。それが10年の期限で、間もなく10年を迎えるというタイミングになりますので、ここでちょっと真剣に考えていただくべきときではないのかなというふうに思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） すみません。三つの拠点をするということを真剣に考えて、それとも、工業団地の話。（発言する者あり）私も同じことを考えておりまして、選挙の話になってしまうんですが、選挙戦で回っておりますと、やはり朝倉町と杷木町の人は、やはりだんだんだんだん人口が減って行って、活力がなくなっていくというのの不安というのを随分耳にいたしました。

ですから、そういった意味では、各場所に拠点が必要なかなと思っております。そういった中で、旧杷木町役場、それから朝倉町役場、そして、たまたまインターのそばにあるわけなんですけれども、そういった拠点づくりというのは必要だと思って、役場にこだわって、ITのスタートアップとかいうふうには申し上げているんですけども、これと同じことで、やはりインターが三つありますので、ここの周りを活用していくというのは大事だと思っております。

ただ、土地の広さといいますか、でいくと、朝倉はまだあるんですけども、杷木は残念ながらあまり広い土地がない、小さなといったらあれですね。ある程度のまとまった土地はあるんですけども、広大な土地はありませんので、あそこは杷木はバスが下りてきますので、これは大きな強みだというふうに思っておりますので、インターを中心とした拠点

づくり、3拠点というのが私は各旧1市2町に核となるものが必要だという部分については賛成の考え方です。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） この件につきましては、今後また市長ともいろいろ話をさせていただきながら、ぜひいい方向に進めたらなというふうに思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

3点目に移らせていただきます。出前市長室について。正式には出前型情報公開の推進というふうになっております。朝倉市の特徴として、情報の発信が下手くそであるというふうにずっと言われております。

今回これが出てきたときに、これは市長が外に出ていかれて、そして情報を発信されるんだらうなというふうに思っておりました。そしたら昨日、一昨日の話を聞きますとちょっと違う、まずは聞くことから始めますというふうにおっしゃっておりましたけど、もう1回全容をお願いいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私はやはり最初は聞くスタンスを出したいと思っています。といいますのが議会報告会で議員として、議会報告会を回っていますと、やはり自分の意見を聞いてほしいという方が随分やっぱり住民の皆様にはいらっしゃるんだなというような印象を持っております。

ですから、行って聞くことによって、皆様のまず本音を聞いて、そして市役所と行政の距離を縮める。市役所がちゃんと話を聞いてくれるんだと、そういう安心感を与えたいという部分があります。

そして、できましたらその中に何か解決の種を見つけたいなと思っていますので、最初は聞くということを大事にしたいと思っています。

ただ、聞いてばかりではやはりその場が持たないでしょうから、そこについては、これについてはこういうことですよということは説明はしていきたいと思っていますけれども、聞くということを主に最初はやっていきたいと考えています。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） 確かに話を聞くということが何でも基本なんだらうなというふうには思いますが、ちょっと話それますけれども、議員もですし、議長ならもっと、議長経験者はもっと身近で市長の動きを見れます。はたから見られてた市長の仕事と、今実際になられてみて、その感じる市長の仕事の違いはございますか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） まず私が議員になりまして、塚本市長、それから森田市長、林市長と3人の市長を間近で見させていただいております。

そういった中で、災害の部分でいくとやはり森田市長とは随分御一緒させていただきま

したので、やはり自分の身を削ってなさったんだなと。そして、一緒に上京も森田市長、林市長もさせていただきましたので、そのパイプの強さといいますか、人脈の広さというのは驚かされるものがありまして、私は今市長という同じ職を預かりまして、ここの部分は私は相当な努力をしていかないと、同じものは得れないんじゃないかなと。

ただこれは、ないものねだりをしてもし方がありませんので、これは頑張っていって、実績で示していくしかないというふうに考えております。

それともう一つが、市民の皆様との接点にはなるんですけども、やはり行事が物すごく多いですので、それに対してたくさん出ることが私の発信にはなっていくのかなと。できるだけ前の林市長が出てあった会議は大事にしていって、出ていこうというふうに今思っております。

ただ、休みがないぐらいやはり忙しいので、そういった場で挨拶の機会というのがたくさんありますので、自分是对話を大事にしますということは必ず言っていって、そういう場に出ることによって、発信をしていって市民の皆様 私の考えを伝えていきたいなと思っております。

すみません、ちょっと答えがずれてしまったかもしれませんが、やはり忙しさが全然違うなと。私は議長として歴代の市長を見てきましたけれども、そのときにはやっぱり分かっていなかったんだなと、この忙しさはというふうに感じております。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） 私も議長経験者として、間近で市長の動きとかを見せていただきましたけれども、当時から市長って激務だなというふうに思っておりました。実際になられてみてどうなのかなというふうに思いましたのと、先ほど市長が直接おっしゃった林市長をはじめ、公式の会合であつたり、いろんな場に行かれる場面が出てまいります。

そのときには我々も一緒の場面もあるわけですけども、挨拶をされて私が見る限り感じたことですが、早めに帰られている。すぐ帰られているようなイメージがあるんですけども、先ほど言われた皆さん市民の声を聞くというのと、その会場にいらっしゃる人の声を聞くというのの違いは何ですか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） すみません。早く帰っているということだったら申し訳なく思っているんですけども、多分スケジュールの関係で、できるだけたくさん数をこなすために、早く帰っているのではないかなと思います。

ただ宴席も多いものですから、宴席は途中で帰るというのはできませんので、それについては最後までいて、俗に言うお酒の席での本音の話というのはやっております。

それともう一つは、やはり自分の中でやはり勉強していかないといけないというのは物すごく思っておりまして、今回もたくさんの議員の皆様から質問をいただきましたけれども、それに対してやはり答えられるように分かっておかないといけないというのは強

く、この議会を経まして反省をしているところです。

○議長（小島清人君） 10番半田議員。

○10番（半田雄三君） 今市長がおっしゃいましたとおり、私もどっちかという面と向かって構えてする話よりも、いろんな場面に入っていったときに聞く話のほうが重要な話であったり、大事な本音の部分だったりというのを聞けて、それが民意なんじゃないのかなというふうに私は思うんですが、もちろん正式にこの場に行きますと言って聞くのも大事でしょう。

けれども、そういう会合であつたり違う要件で集まった場での話というのも、決してないがしろにされることなく、重要に真摯に受け止めていただくということが必要なんじゃないかなというふうに思いますので、それはぜひ続けていっていただきたいなというふうに思います。

今回3日間通しまして、まだまだ私が最後なわけじゃないんですけれども、私が感じたことは、本当に誠実に前向きに対応して、質問に対して対応していただいているというふうに思います。

ですが、先ほども言いましたとおり、今選挙における多分周りの方々は勝たせたい、中島市長を勝たせたいという動きをされたんだろうと思いますけれども、よかれと思ったことが中島議員として積み重ねられた信頼という部分に、損なう部分が出てきているような気がいたします。

私個人、個人的な人間であり続ける中で、相手への尊重と信頼というのがなければ成り立たないというふうに思っておりますので、ぜひ損なわれたと思われる部分を、今議会を通して対応されましたように、誠実にゼロからスタートするつもりで、市の発展もしくは市民の皆さんの福祉の向上に向けて活躍していただきたいというふうに思います。以上で私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（小島清人君） 10番半田雄三議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午後1時に再開いたします。

午前11時45分休憩